

## メッセージアウトライン

### コリント人への手紙 第一5:6～8 「古いパン種を取り除け」

[6]「あなたがたの高慢は、よくないことです。あなたがたは、ほんのわずかのパン種が、粉のかたまり全体をふくらませることを知らないのですか」

ここでパウロはパン種の例を挙げて彼らを叱責する。パン種とはパンを作る時に用いるイースト（酵母）。パン種の働きによってパンは大きく膨らむ。同じようにたった一人の不品行な者が教会の中だけで、教会全体が影響を受ける。そしてこのような者を黙認し、なすべき処置をとらない教会のあり方こそが根本的な問題であった。それは彼らの「高慢」にあった。誇り高ぶり、他人よりも自分をすぐれたものとする。他人の意見を聞かない。謝ることをしない。他人を見下げ、批判する。… このような高慢は心の内から出て人を汚す罪の一つ。→マルコ7:20～23

この高慢を取り除かない限り、第二、第三の不品行な者が出、さばかれもせず、黙認されていくであろう。コリント人たちは自分たちが誇っている賜物や知識はすべて神から与えられているということを忘れ、また罪赦され、救われた者は何をしていても自由だと思いい違いをしていた。しかし、イエス・キリストにあって救われた者は、今度はキリストのくびきを負って従う義務がある。→マルコ8:34～35

[7]「新しい粉のかたまりでいるために、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたはパン種のないものだからです。私たちの過越の小羊キリストが、すでにほふられたからです」

古いパン種を取り除け。これがパウロの言わんとすること。パウロは、ここでユダヤ人にとって重要な祭りである過越の祭りを引用する。その起源は→出エジプト12:1～28 過越の祭りは、主がイスラエル人を寄留していたエジプトから、力あるみわざによって脱出させてくださったことを、覚え、記念し、感謝する祭り。人々はそのために七日間パン種を入れないパンを食べる。パン種を入れないのは、もう古いパン種を得ていたエジプトのことを思い出さない、捨ててしまうということと、エジプトを脱出するのに遅れてはならないということがあった。パウロはここで、イスラエルのために犠牲となった過越の小羊を人々の罪のために十字架にかかって死なれたキリストの姿と重ねている。過越の小羊こそキリストを象徴するもの。→ヨハネ1:29

過越の小羊キリストによって救い出された教会は、パン種のないものでなければならない。今、問題となっている高慢だけではなく、神のみこころにかなわない古い生き方は取り除かれ、捨て去らなければならない。

[8]「ですから、私たちは、古いパン種を用いたり、悪意と不正のパン種を用いたりしないで、パン種の入らない、純粋で真実なパンで、祭りをしようではありませんか」

イエス・キリストは私たちの罪のために十字架につけられ、死なれた。過越の小羊キリストはすでに<sup>ほふ</sup>屠られたのである。

教会はどのようなかたちのものでも、神の過越の小羊であるキリストを無にするパン種を拒否して、純粋で真実なパン、生活態度、思いで主を礼拝し、信仰生活を守らなければならない。コリント教会には今それが求められている。